

2020 年度 第 1 回女性分科会報告書 (資料含)

目次

- 資料① 2020 年第一回女性分科会ウェブ会議次第.pdf
- 資料② 令和元年度女性分科会 1 回～4 回まとめ（最終）_修正版 20200517.pdf
- 資料③ 2019 年女性審判研修会参考資料.pdf
- 資料④ 2019-20 女性分科会引継ぎ事項まとめ.pdf
- 資料⑤ 2020 年度第 1 回女性分科会報告書.pdf

2020 年 5 月
女性分科会

2020 年 第一回女性分科会 会議次第

- 日時：2020 年 5 月 17 日（日）13 時～15 時
- 場所：参加者各自自宅他
- 会議方法：ウェブ会議（*Zoom を利用、ウェブ会議参加方法詳細は別途メールで連絡済）
- 議題：・2020 年度女性分科会役員顔合わせ
・昨年度から今年度の分科会内容引継ぎ

■スケジュール：

1. 13:00～13:35 2020 年度女性分科会役員顔合わせ
2. 13:35～14:10 昨年度から今年度の分科会内容引継ぎ
3. 14:10～14:50 質疑応答
4. 14:50～15:00 その他（サマーキャンプについて、全体補足）

■出席予定者：

女性分科会担当 1 名+女性ブロック役員 9 名+旧コアメンバー 3 名+JBA 審判セクション 1 名
計 14 名 *欠席予定者無し

No	氏名	所属都道府県/ブロック/分科会役職
1	伊藤恒	女性分科会担当
2	佐藤陽子	北海道/北海道ブロック/2020 年度コアメンバー
3	武田亜沙美	山形/東北ブロック
4	古畑香子	茨城/関東ブロック/2020 年度コアメンバー
5	中江洋美	石川/北信越ブロック/2020 年度コアメンバー
6	坂井佑季子	三重/東海ブロック/2020 年度コアメンバー
7	柳生志乃	兵庫/近畿ブロック
8	藤田悠美	山口/中国ブロック
9	浪越由佳里	香川/四国ブロック
10	隈元ゆみこ	鹿児島/九州ブロック
11	須黒祥子	旧コアメンバー
12	田邊真由美	旧コアメンバー
13	窪田淑子	旧コアメンバー
14	山本理子	JBA

（※敬称略）

■会議内容（詳細含）

1. 2020 年度女性分科会役員顔合わせ（13:00～13:35）

- ・下記の順で簡単に自己紹介を行う

伊藤氏→佐藤氏(北海道)→武田氏(東北)→古畑氏(関東)→中江氏(北信越)→坂井氏(東海)→柳生氏(近畿)→藤田氏(中国)→浪越氏(四国)→隈元氏(九州)→須黒氏→田邊氏→窪田氏→JBA 山本

- ・伊藤氏より今年度のコアメンバー(4 名)についての紹介

2. 昨年度から今年度の分科会内容引継ぎ（13:35～14:10）

司会（古畑氏）

記録（Zoom の記録機能を使用し、第一回分科会の報告書はコアメンバーでまとめる）

- ・女性分科会の活動目的について（古畑氏）

女性審判が安心して活動を継続できる環境整備と全国女性審判員の拡充。5 年後の WJBL を女性審判で担っていくためのサポート体制の整備。

- ・昨年度の女性分科会の検討内容と報告について

（*参照：＜事前配布資料＞令和元年度女性分科会 1 回～4 回まとめ（最終）.pdf、2019 年女性審判研修会_参考資料.xlsx、2019-20 女性分科会引継ぎ事項まとめ.pdf）

2-1 女性審判員同士の情報共有を確実にできるようにする（中江氏）

2-2 女性審判研修会（各県、ブロック単位）を実施する際のフォロー体制を確立する（佐藤氏）

2-3 トップリーグ（WJBL）を将来的に女性審判員で任された場合に、女性分科会としてどのようなことができるのかを考え、準備する（坂井氏）

*須黒氏、田邊氏、窪田氏より補足他

3. 質疑応答（14:10～14:50）

4. その他（14:50～15:00）

- ・サマーキャンプについて（JBA 山本）

今後、別日程を設けて、女性審判研修会（座学）の内容について女性分科会で検討する。現時点では、9 月第一週目 4 日（金）～6 日（日）の 3 日間でオータムキャンプとして群馬県高崎市で開催予定。開催可否については、7 月中に W リーグで判断する。開催無しの場合は、この期間に実施予定の女性審判研修会（座学）を Zoom 使用し、ウェブ開催するのか、今年は開催しないのかも含めて検討する。

- ・全体補足（伊藤氏）

令和元年度 女性分科会実施報告書

令和元年 4 月、7 月、9 月、12 月の計 4 回会議を実施した。

第 1 回：サマーキャンプで実施すべき内容について（女性審判員の課題や解決すべき問題点など）検討した。

第 2 回：7 月 14 日実施の WJBL サマーキャンプに参加した女性審判員全員でグループ協議を行った。

「女性を取り巻く環境」「女性特有の問題とその解決策～出産、育児などによるブランクと復帰について」「若手女性審判員の育成について」の 3 テーマについて、グループディスカッションと全体交流をおこない、課題の共有と今後の取り組みの方向性を決めた。

第 3 回：9 月 1 日 JBA オフィスにて各ブロック代表者 7 名（欠席 4 名）で実施

サマーキャンプで提案された内容について整理し、まとめを行った。

第 4 回：12 月 26 日 AGF フィールド大会本部室にて各ブロック代表者 8 名（欠席 3 名）で実施

第 3 回分科会実施のうえで作成された報告書の内容については精査する必要があったことと、実施可能な内容について具体性が欠けていたため再検討した。今年度のポイントは女性審判員が活動していくうえで、互いに支えあっていけるような環境をつくることと、その連絡・サポート体制を構築することであると考え、以下のようなことを検討し、実施していくことにした。

また、各都道府県女性審判担当者の役割を明確にすることで、各県やブロックに応じた課題への取組を活性化させ、女性審判員の普及や発掘につなげていくことを目標にしたいと考えた。

本年度の女性分科会検討内容と報告

- 1、女性審判員同士の情報共有を確実にできるようにする
- 2、女性審判研修会（各県、ブロック単位）を実施する際のフォロー体制を確立する
- 3、トップリーグ（WJBL）を将来的に女性審判員で任された場合に、女性分科会としてどのようなことができるのか考え、準備する

1、女性審判員同士の情報共有を確実にできるようにします

女性審判員の把握と連絡体制を明確にする

ライセンスを取得したすべての女性審判員に各都道府県内での活動を継続してもらえる環境づくりの第一歩（現段階としては、各都道府県によってライセンス別の数が違うので統一するのは難しいため、最低でも今年度は S,A,B 級については完全に把握する。対応できる都道府県によっては C,D,E と広げていく）

- （1）各都道府県担当者は、各県審判長を通じてメールアドレスを把握し、女性分科会から提供される情報をメール配信できるようにする

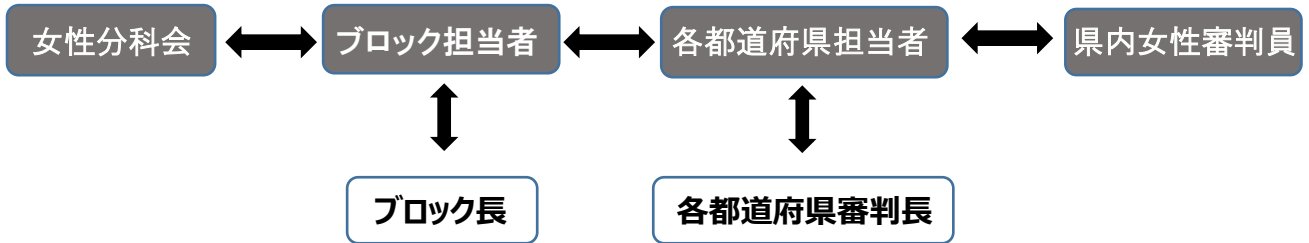
女性分科会から提供される情報の例：

各ブロックや都道府県の分科会としての取組みの紹介、活躍する女性審判員の情報やコメント、他県からの移籍が起きた場合、各県審判長から移籍者を女性担当者に連絡してもらい、都道府県女性担当者とコンタクトをとれるようにし、活動を継続しやすい環境をつくる

(2) 活動休止中の女性審判員の把握と情報の共有

活動を休止する女性の審判員については、審判長と女性担当者との連携により、休止している人を把握する
また、その旨を直接、各都道府県女性担当者に連絡してもらうようにすすめる

全国女性審判員への連絡体制



2、女性審判研修会を実施する際のフォロー体制をつくっていきます

現在、女性審判員の数は増加傾向にあるが、審判員の全体数から見ると男性より圧倒的に少ないのが現状である。

現行のライセンス別更新講習や強化講習会とは別に、女性審判員普及にフォーカスした研修会を可能な限り実施をしていくことで、安心して審判活動が続けられるようにし、女性審判員の数を増やしていきたい。女性特有の課題にぶつかりながら審判活動を行っている人も多いと思うので、出産や育児・からだや心の悩みなどに触れるような内容も必要なのではないかと考える。さらに、女性審判のための研修会を実施したいと考えてはいるが、具体的にどのように実施していくのかわからない、研修内容や方法にはどのようなものがあるのかわからないなどの理由から、実態や課題の状況にかかわらず毎年同じ内容で実施しているなどの課題がある。

ブロックや都道府県によって抱えている課題は違うので、各ブロック担当者と都道府県担当者間で情報を共有しながら、実情に応じた内容の研修会の開催ができるように次のような観点でサポートをしていきたい。

(1) 研修会を実施する際の手助け

- ・実際に行われた研修会について、実施までのフローをまとめ、各ブロック担当者から必要に応じて都道府県担当者に提供できるようにする

(2) スポーツにかかわる女性の心やからだについての情報提供と共有機会

- ・婦人科系の内容についての講演情報などについても研修会で実施できるように、各ブロックや都道府県の取組を紹介する
- ・女性審判員として悩みや相談事がある場合や産休育休明けの審判員としての課題などを共有する機会にする
- ・婦人科関連の専門家に月経、産後のトレーニングについての助言や指導してもらえる機会にする

2019年度実施された女性研修会の一例

11月 JSBレディース研修会(北海道)
2月末 北海道ブロック女性研修会 / 3月末 新潟で実施する女性研修会
3月 佐賀県で実施するカップ戦での女性研修 など

3、将来的にトップリーグ（WJBL）を女性審判員で任されるようになった場合に分科会として取り組んでいけること

今後、社会的にも働く女性のための環境が整い、育児に対する理解と協力体制が確立されていくことが予想される。このような社会的な環境の変化と若年層からの審判員育成の成果などを鑑みたうえで、女性審判員としての活動状況について考えたところ、いくつかの課題が想定された。

女性のS級ライセンス保有者を2019年度と2023年度(4年後)の想定した人数を年代別に示し、その比較をおこなった。

Table 3-1 年代別 S 級女性審判員数の比較 (2019-2023 想定)

S級女性審判員数								
2019年度		～30歳	31～35歳	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51歳～	合計
	2019年度現有数	3	7	8	11	1	0	30
2023年度 想定		～30歳	31～35歳	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51歳～55歳	合計
	① 2019年度		3	7	9	10	1	30
	② 想定増数	3	5	5	2	-3	-1	11
	2023年度数	3	8	12	11	7	0	41

※想定数について

- ①2023年のS級審判員数の年齢分布とした
- ②20～23年度に毎年3名～4名ずつ昇格した場合（年齢構成は現在のA級の人数から想定）
- ③46歳以上の審判員が2/3に減少した場合の数

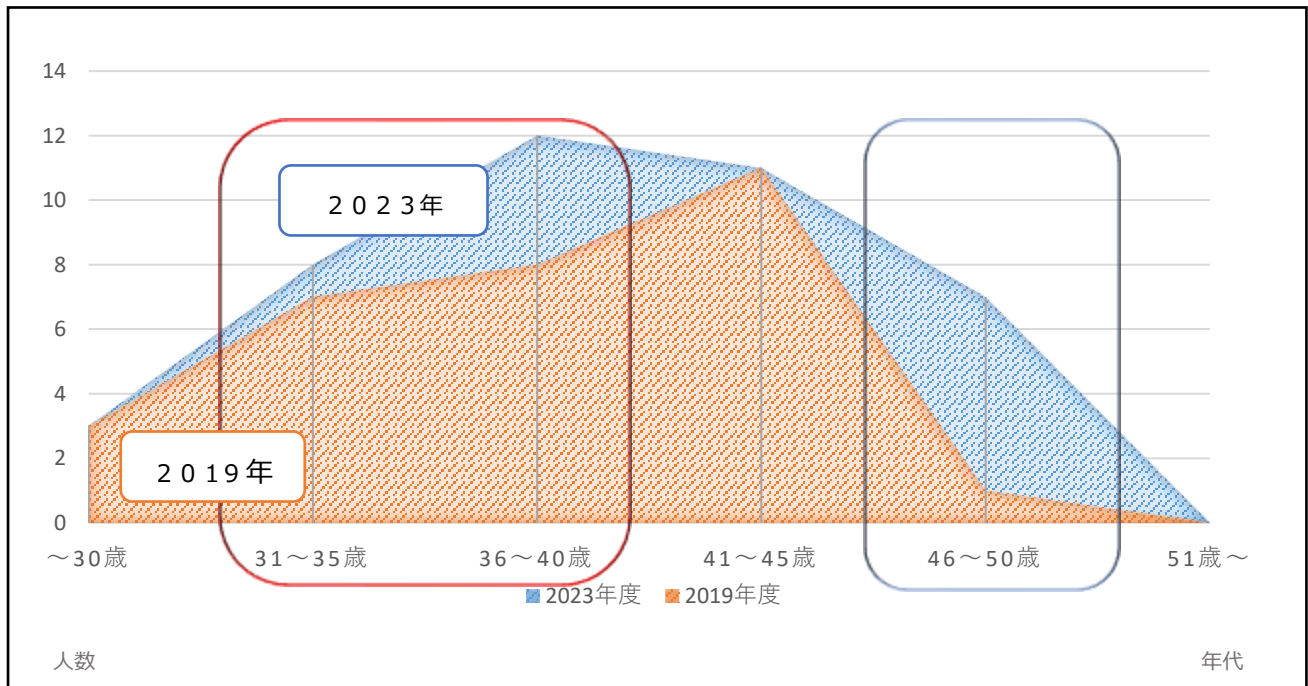


Figure 3-1 年代別 S 級女性審判員数の比較 (2019-2023 想定)

表 1、図 1 から 2019 年と 2023 年総定数で女性 S 級審判員の数と比較してみたときに、つぎのような状況が想定されるのではないかと考えた。

- (1) 30 代から 40 代前半の S 級女性審判員が増加していく
- (2) 女性審判員を取り巻く体制や環境が整っていくので、現在活動している 30 代前半から 40 代前半の人たちが、30 代後半から 40 代後半になったとしても長く続けていける

このような点から、20 代後半から 40 代前半、40 代後半の女性審判員には、結婚・妊娠・出産・育児という生活環境の変化や身体的・精神的な負担の中で活動していくことが求められるし、年齢を重ねてもトップリーグでの審判活動に耐えうるだけの身体づくりや家族や職場の協力体制をつくるという課題も挙げられる。

現在より、より多くの女性審判員がトップリーグで活動し、より長い期間にわたって活躍していくことが想定される中で、特に結婚・妊娠・出産・育児に関する課題は避けて通れないと考える。

女性審判員でトップリーグ（WJBL）を任されるようになった場合に、女性分科会として取り組んでいくことについて、トップリーグの活動を多くの女性 S 級審判員が継続していくことができるようにするということに焦点を当てた。そのために必要なサポートは何かと考え、現段階でできることとして以下の 3 点を挙げたい。

安心してトップリーグ審判員としてのキャリアを中断することができるサポート体制
妊娠・出産後から復帰までの調整方法について
育児とトップリーグ審判員としての活動を両立できる環境

- ・活動休止中の方々への JRS や POE の情報提供を行い、復帰をする際の情報不足による不安払拭を図る
- ・各ブロックや都道府県での女性対象の研修会を実施を継続することで情報共有や相互研修を継続していく
- ・各ブロックや都道府県レベルで実際に取り組むことができた内容（託児スペースの確保や、女性に特化した社会的バリアや身体的な課題についての内容など）を全国で共有していくことで、その困難さに対するハードルを下げしていく

女性審判員のみでトップリーグ（WJBL）を任されるようになるためには、審判員としての様々な力を向上させていくことがとても重要な課題である。同時に女性分科会としては女性審判員が抱える課題を解決し、安心して活動できる環境築いていけるようにサポートできる体制をつくっていきたいと考えている。

*研修会開催までの流れ（参考）

2020年度 ○○県女性審判研修会

日程	内 容	準備・作成物	送信元	宛先	添付資料
2か月前	日程・内容等の確認	開催要項 事業予算書	担当者	審判委員長	開催要項 事業予算書
	IR決定	IR依頼	審判委員長	IR	
	研修場所、控え室の確保（施設利用については、半年前くらいから空き状況の確認、仮押さえ等の申込） （託児スペースの確保）	施設利用申請書等			
	（大会を使用する場合、大会事務局へ依頼）		（担当者）		
	（宿泊先の確保）		（担当者）		
	（保育士依頼）		（担当者）		
50～60日前			審判委員長	○○県バスケットボール協会	開催要項・事業予算書
	県内所属女性審判員へ案内・開催要項配信依頼		担当者	審判委員長	開催要項
	各ブロック女性分科会担当者へ情報共有依頼			ブロック担当者	
				IR	
40～50日前	申込受付開始（TeamJBAで研修会を設定する場合、設定依頼）				
（1か月前）	（食事会セッティング）				
2～3週間前	申込締切・受講者一覧	受講者名簿	担当者	審判委員長・ブロック担当者	受講者名簿
	受講者一覧・研修内容依頼	研修内容等打ち合わせ		IR	
	（宿泊者数確定、宿泊者一覧）	（宿泊者名簿）	（担当者）	（宿泊先）	（宿泊者名簿）
1～2週間前	受講者へ展開	最終案内 タイムスケジュール 審判割当	担当者	受講者	最終案内 タイムスケジュール 審判割当 組み合わせ
	タイムスケジュール、移動手段の確認			IR	
	（大会事務局と最終打ち合わせ）		（担当者）		
	（託児利用について案内、お子様についての情報提供について（当日持参））	〔託児利用案内 お子様情報〕	（担当者）	（託児利用の女性審判員）	〔託児利用案内 お子様情報〕
当日	研修会当日				
事後	事業報告書、活動報告書、支払い請求書、受講者名簿等		担当者	○○県バスケットボール協会	各報告書
	お礼		担当者	審判委員長・IR・ブロック担当者	
	（託児利用後のアンケート）	（アンケート等）	（担当者）	（託児利用の女性審判員）	（アンケート）

*2019年度女性審判研修会：北海道（参考）

2019年度 北海道ブロック女性審判研修会（兼JSB審判研修会 東日本レディース交流大会使用）

日程	添付資料	送信元	宛先	内容
9月3日	開催要項	佐藤陽子	審判委員長	日程・内容等の確認
9月13日	開催要項・事業予算書	審判委員長	北海道バスケットボール協会	常任理事会へ提出。承認。予算については2018年度に計上済み。
9月14日	開催要項	佐藤陽子	北海道ブロック各地区審判長	地区所属の女性審判員へ開催要項配信・案内依頼
	開催要項	佐藤陽子	保育士	託児スペースを設置のため、保育士へ2日間の派遣依頼
9月15日	開催要項	佐藤陽子	北海道協会所属BCDE級審判員	TeamJBA研修会設定完了（対象：女性審判員） 申込開始（締切 9/27）
9月21日	大会稼働依頼	佐藤陽子	北海道ブロック各地区審判長	地区所属のBC級審判員（男性）へ稼働依頼
9月上旬	・IR決定 （JSBより3名、北海道ブロックより 2名）			
	・タイムスケジュール作成（研修場所、控え室や託児スペースの確保）			
9月下旬	旅費予算書	佐藤陽子	JSB北海道事務局	JSB交通費規定より概算
	・食事会セッティング			
10月上旬	受講者（稼働者）名簿	佐藤陽子	JSB北海道事務局・JSB審判部	受講者（稼働者）一覧
	宿泊者名簿			宿泊者一覧 ※宿泊先はJSBで確保
			佐藤陽子	IR
10月中旬	最終案内 タイムスケジュール 審判割当 組み合わせ	佐藤陽子	受講者	受講者へ展開
			北海道ブロック各地区女性担当	受講者一覧、当日の役割分担等確認
			講師	移動手段と発着時間の確認
	・大会事務局と最終打ち合わせ			
10月下旬	託児利用案内	佐藤陽子	託児利用の女性審判員	託児利用について案内、お子様についての情報提供について（当日持参）
11月2～3日	研修会当日			
11月上旬	集合写真	佐藤陽子	IR・JSB審判部・受講者	終了報告・お礼
	各報告書	佐藤陽子	北海道バスケットボール協会	事業報告書、活動報告書、支払い請求書、受講者名簿等
	アンケート	佐藤陽子	託児利用の女性審判員	託児利用後のアンケート（スペースの広さ、本やおもちゃの数等々、今後の参考までに）

*託児アンケート：北海道（参考）

託児スペース利用 アンケート

託児スペースについて	ちょうどいい もう少し小さな部屋でも十分です。	ちょうどいい
玩具・本について	ちょうどいい	もっと色々遊べるものがあったらよかった
飲み物・お菓子について	自分のものを持参したので必要なかった	自分のものを持参したので必要なかった
託児スペースの設置・利用について	今後もあれば利用したい	今後もあれば利用したい
その他	みなさんが息子を可愛がってくださり、試合の間も集中することができました。また、絵本や塗り絵など、十分すぎるほどの準備をしていただきました。予定では、自分たちでもっと遊べるものを持っていこうと考えていたのですが、駐車場が遠かったこともあり、最小限の遊び道具しか持っていかなかったもので、本当にありがたかったです。 レフリー仲間が息子を見てくださり、私としては安心できましたが、息子を相手してくれている間、試合を見ることができなかったらと思うと申し訳ない気持ちもあります。また、万が一、怪我や器物破損などがあった場合、もちろん保護者の責任ですが、担当してくれた方がやはり嫌な思いをしてしまうのではという心配はあります。 3歳くらいになると、自分である程度食事ができたり、トイレに行きたいと伝えることができますが、3歳未満だとオムツ替えなどもっと手がかかり、担当者への負担も大きくなると思います。今後、託児スペースを設ける機会があれば、年齢制限を設ける必要が出てくることも…と少し感じました。 上手くまとまりきれず、申し訳ありません。最後に…託児スペースがあったことで、私個人としてはレフリー活動を楽しむことができました。本当にありがとうございました。	諦めていた地区外の大会に移動することができました。ありがとうございました。
	（男の子 3歳）	（男の子 10歳）

*2019年度他の女性審判研修会開催計画：北海道（参考）

北海道ブロック女性審判研修会		
日程	2/29～3/1	
内容	講義	けが防止のためのストレッチ、テーピング、ケアについて
	実技	練習ゲームを使用して3PO
対象	A・B・C・D・E級	

自費ブロック外研修	
日程	3/19～22
場所	九州・関西方面
	北翔大学の道外遠征へ帯同
対象	A・B級

※どちらとも、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため中止

2019-20 女性分科会引継ぎ事項まとめ

(※番号は会議次第の番号とリンクしています)

2. 昨年度から今年度の分科会内容引継ぎ

2-1. 女性審判員同士の情報共有を確実にできるようにする

(1) 情報共有について

昨年に引き続き、

- ① P O E については、引き続き S 級全員に配信をお願いしたい。
- ② 昨年から配信されている J B A R E F 共有映像について、活動休止申請を出されている A 級以上の方へは配信されていないと思うので、各都道府県担当者またはブロック担当者（各都道府県担当者が B 級だった時は）が転送するようにしたい。
- ③ 各都道府県や各ブロックで実施されている女性審判研修会の情報などを、各ブロック担当者や各都道府県担当者と情報を共有していきたい。

(2) 移籍、活動休止者などの把握について

- ① 昨年、話し合われた連絡体制で把握していきたい。
- ② 今年度は、各都道府県担当者を上手く動かしていきたい。

(3) 女性分科会で話した内容などを各都道府県各県担当者と共有できるようにしたい。WEB 会議などを上手に利用できないか。

2-2. 女性審判研修会（各県、ブロック単位）を実施する際のフォロー体制を確立する

(1) 研修会の情報共有（1（1）③同様）

(2) 研修会実施までのフローの情報共有

(3) 研修会で実施したこと

例えば、託児所を設置してみた、子連れ O K ということを事前にアナウンスしてみた等。

その結果、このような声があったとか、課題として上がったことなどを共有したい。

*上記（1）～（3）を共有することで、各ブロック、各都道府県で同じように実施できないにしても（状況がそれぞれ違うので）、それぞれの取り組みの情報を共有することで、参考にできるアイデアが生まれてくるのではないか。

(4) 女性の身体的特徴などの講義を取り入れているモデルケースを増やしていきたい。

(5) 各都道府県、各ブロック間で交流することで、女性審判員同士の繋がりを広げ審判員の普及活動につなげていきたい。

2-3. 将来的にトップリーグを女性審判員で任せられるようになった場合に分科会として取り組んでいけること

*2-1 (1) ①、② 情報共有

(1) 妊娠、出産後からの復帰までの調整方法などについて、専門家を招いて講演会をするなど私たち自身が勉強できる機会を設ける

(2) 女性審判員同士の理解を深める。

例えば、子供の体調変化により直前に割当をキャンセルせざる終えなくなったことを気兼ねなく伝えられる。

割当の配慮（地域によっては厳しいかもしれないが）なるべく、宿泊を少なくできるように等。

(3) 長期的に考えると、各都道府県や各ブロックで行われている研修会などで、早い段階（若年層）からライフイベントについて意識を持たせる。

多くの研修会では、テクニカルな部分を中心に内容が構成されていると思うが、ライフイベントについても内容に組み込んでもらう。出産・育児から復帰するまでの環境整備や周囲の協力体制が必要だということを少しでも理解し合うことで、将来的に長く審判活動に携われるようになっていくのではないかと考える。まずは、女性同士が理解し合い、助け合い、お互いをリスペクトすることが大切だと思う。

*追加項目として

新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴い、審判活動ができない状況が続いています。JBA は8月31日に判断するとのことですが、審査会が実施されないことも予想されます。今年の審査会にかけていた人もいます。ライフイベントも考えると、女性の1年はかなり影響として大きい。そのような状況下で、モチベーションの維持が難しいという人も出てくるのが考えられます。また、経済的なことや仕事など様々な理由で審判活動がこれまでと同じようにできなくなってしまう人もいられるかもしれません。そういう方々へのフォローを女性分科会として考えたいと思います。こういう時だからこそ仲間同士で繋がりを深め、女性審判の方々の話を聞き、少しでも気持ちを共有し、支えになれるかなと思います。各女性ブロック責任者や各都道府県女性責任者が少しでも目をかけてあげられないかなと思います。

2020 年度第 1 回女性分科会報告書

■日 時：2020 年 5 月 17 日（日）13 時 00 分開始、15 時 15 分終了

■会 場：参加者自宅他

■会議方法：WEB 会議（ZOOM を利用、管理者：JBA 山本）

■出席者：14 名 女性分科会担当：伊藤 恒

ブロック担当者：佐藤陽子（北海道）、武田亜沙美（東北）、古畑香子（関東）
中江洋美（北信越）、坂井佑季子（東海）、柳生志乃（近畿）
藤田悠美（中国）、浪越由佳里（四国）、隈元ゆみこ（九州）
旧コアメンバー：須黒祥子、田邊真由美、窪田淑子
JBA：山本理子

■会議内容

1. 2020 年度女性分科会役員顔合わせ

（1）出席者、会議の進行スケジュールについて【資料①P1-P2 参照】

（2）女性分科会担当 伊藤 恒 挨拶要旨

- ・今、ハラスメントなど色々と話題に上がってくる時代である。ブロック担当者として各地の女性審判員の目標となる立場であり、時にはインストラクターとして後輩の審判員に指導する場面もある。そのような時には、自分の振る舞いを意識して言動に注意してほしい。
- ・本年度のコアメンバーとして、佐藤さん、古畑さん、中江さん、坂井さん、更に取りまとめ役に古畑さんを推薦します。
- ブロック担当者全員の賛同を得て、承認された。

（3）ブロック担当者 自己紹介

2. 昨年度から今年度の分科会内容引継ぎ

（1）目的について【資料①P2 参照】

<ブロック担当 古畑から>

- ・女性審判が安心して活動を継続できる環境を整える
- ・女性審判員を拡充していく
- ・2025-26 シーズン以降 W リーグを女性審判員で担っていくためのサポート体制を構築する

（2）令和元年度女性分科会実施報告書の内容について【資料②、③、④参照】

<ブロック担当 中江から>

①女性審判員同士の情報共有を確実にできるようにする【資料②P1-P2、資料④P1 参照】

- ・休止申請・復活申請の手順の周知
- ・休止中や復活後の審判員へのトップリーグ POE(S 級)、〔JBA 審判〕指導映像配信(A 級以上)の配信確認
- ・各都道府県やブロック内の女性審判員活動状況の把握

<ブロック担当 佐藤、旧コアメンバー 窪田から>

②女性審判研修会を実施する際のフォロー体制を確立する【資料②P2、資料③、資料④P1 参照】

- ・北海道ブロックで実施された託児所を設置しての女性研修会について紹介
- ・九州ブロックでの婦人科に関する講義の企画について紹介

<ブロック担当 坂井、旧コアメンバー 須黒、田邊から>

③トップリーグ（W リーグ）を女性審判員で担っていくにあたり、分科会で取り組めること【資料②P3-P4、資料④P2 参照】

- ・安心してトップリーグ審判員としてのキャリアを中断することができるサポート体制

・妊娠、出産後から復帰までの調整方法について

・育児とトップリーグ審判員としての活動を両立できる環境

→課題が多い中ではあるが、分科会の柱となる項目であることを全員の共通認識とした。

→各地区からの女性審判員の声を吸い上げ、一つでも形になるよう動きだすこと、各県や各ブロックなどで出来る取り組みや実績を、積み上げていくことが重要である。

→資料②の一部訂正の説明。

【資料②P3】

●上から6行目 誤 2023年度（5年後）

正 2023年度（4年後）

●Table 3-1 年代別 S 級女性審判員数の比較（2019-2023 想定）

※総定数について 誤 ①2019年のS級審判員数をそのままスライドした

正 ①2023年のS級審判員数の年齢分布とした

●Figure 3-1 年代別 S 級女性審判員数の比較（2019-2023 想定）

※2023年度の枠の囲みについて 誤 36～40歳まで

正 31～40歳まで

【資料②P4】

●上から3行目 誤 20代後半から40代前半

正 30代から40代前半

3. 質疑応答

●*POE（Points of Emphasis）についてはS級全員に配信されているか。

→配信されている。配信が無い場合は、即時個別対応する。

→活動休止中の場合はTeamJBAからのメール配信も停止の状態である。〔JBA 審判〕指導映像配信について、A級審判員へもブロック担当者から、メール転送で配信する。

注）ここでの*POEとは、トップリーグ開催期間中、JBAより週毎に配信される試合を解析した映像配信のこと

●活動休止申請は最長3年となっているが、産休育休で3年を超えてしまうと、ライセンスは失効されるか。

→原則最長3年であるが、特別な事情がある場合はその限りではない。各都道府県内の審判委員会の検討・承認により、延長可能。

→女性分科会として、ブロック担当者や各都道府県内担当者が全国ブロック長・審判長を通じて活動休止中の女性審判員を把握し、女性審判員のフォロー体制を築いていきたい一方で、活動休止理由は個々様々であり、プライバシーに配慮することは絶対条件である。今後、女性分科会で配慮すべき点や把握の方法を再度検討し、各都道府県内担当者に展開したい。

●各地区で実施されている研修会に、ライフイベントや女性審判員が活動を継続するための環境整備について考える機会を設けてはどうか。また、出産をすることによって、身体やライフスタイルに多様な変化が起こる。そのような実情をまずは認識することで、対応の仕方なども見えてくるのではないか。

→若い時期から、これらの研修会に参加することで、自分自身の審判スキルアップだけでなく、様々なライフプランがあることに気づき、今後の審判活動を考えていききっかけになる。また、出産とコンディショニングについて、専門的な知識が少しでもあると、復帰やその後の怪我防止などに役立つ。個々が直面してから、それぞれの判断で対応してきている現状を改善したい。

→出産すると1年以上コートから離れることになる。また審判活動ができるのか不安が多い中、支えになるのは仲間の存在である。情報の共有や励ましの言葉が復帰へのモチベーションを支える大きなエネルギーとなる。繋がりを途絶えさせず、県内やブロックを越えても女性同士で相談し合える仲間づくりに取り組んでいきたい。

4. その他

(1) 9月開催のオータムキャンプでの女性審判研修会開催について

- ・9月開催予定のオータムキャンプが中止になった場合でも、女性審判研修会をウェブ会議など別の方法で開催したいという意見が多数あった。従って、9月開催予定のオータムキャンプが中止になった場合でも、女性審判研修会をウェブ会議などの方法で開催する方向で進めていくことを確認した。開催に向けて具体的な方法や内容について、コアメンバーを中心に立案し、第二回女性分科会でブロック女性担当者と検討する。

(2) 伊藤氏より補足

- ・各地区での女性審判研修会の交流や取り組みについて情報共有をしていくことは良いことである。良い事案があれば、報告を各ブロック、都道府県担当者にあげていただき、JBAに報告していきたい。
- ・Wリーグを女性審判が担っていく中で、審判の技術レベルを上げて行くことも当然必要になる。CCを担当できる女性審判員を数多く輩出していきながら、同時に裾野を広げていかなければ数も増えていかない。そのために、各地での研修会や交流を進めていくことが、女性分科会の担う役割だと感じる。

<その他のご意見>

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で審判活動が出来ていない中、不安を感じている審判員が多い。このような時こそ繋がりを持ち、女性分科会でできる範囲でサポートをしていきたい。
- ・女性分科会を定期的に開催し、具体的な取り組みに繋げていきたい。
- ・女性分科会の取り組みについて、メンバー以外の方にも理解いただく必要がある。求めているニーズが異なると当事者意識が生まれず、分科会の活動が浸透していかないのではないかと心配している。現場の声を聴き、分科会の取り組みを現場に届けていく仕組みが必要である。
- ・女性分科会は5年後の未来を創っていく会。競争の中で、今が精一杯の方も多くいる中ではあるが、近い未来の環境を整えていくために、皆さんの経験や意見を伝え、課題をひとつひとつクリアしていきたい。

<配布資料>

【資料①】2020年第一回女性分科会ウェブ会議次第.pdf

【資料②】令和元年度女性分科会1回～4回まとめ（最終）_修正版 20200517.pdf

【資料③】2019年女性審判研修会参考資料.pdf

【資料④】2019-20 女性分科会引継ぎ事項まとめ.pdf

<今後の予定>

- ・第2回女性分科会（ウェブ会議）7月開催予定

- ①オータムキャンプ女性審判研修会研修内容の検討
- ②各都道府県女性審判の把握・情報共有についての確認